

第 13 回美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施について

博物館・美術館に展示される貴重な美術品・文化財等の取扱いや、その梱包輸送には、一定の知識・技能が求められる。①こうした知識・技能を継承するインセンティブを関係者に与えること、②より多くの梱包・輸送業者の技術水準の向上を図ること、③国公立博物館の競争入札で、安価で技術が未熟な運送会社への落札を回避できるようにすることを意図して設けられたのが、この認定試験である。

日本博物館協会では、平成 24(2012)年から、この認定試験を実施しており、この度、13 回目の認定試験を実施したので、報告する。

1 級の認定試験

令和 5(2023)年度の 1 級試験は、夏枯れ時期である 8 月 5 日土曜日に実施した。令和 2(2020)年度以降我々の生活を規定してきた新型コロナウイルス感染症が、5 月の連休明けに、インフルエンザ等と同等の「第 5 類」に移行されたが、それ以降で、初めての認定試験となった。

感染者数はむしろ増加している中で、マスクの着用が個人の判断となった環境下、今回も、広い空間の利用できる東京国立博物館の平成館で実施した。

1 級は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準を想定しており、経験年数 10 年以上と 2 級の保有を受験資格にしている。試験は筆記試験と口頭試問で、両方に合格する必要がある。

受験希望のある 4 社に受験者の枠を振り分け、10 名で試験を実施した。

筆記試験は、伝エジプトテーベ出土で東京国立博物館所蔵のサクメイト女神神像 1 軀(第 18 王朝・前 16~14C)を京都文化博物館で開催される特別展に出品するため、京都文化博物館に輸送し、展示会後返却するに際し、その下見において、留意するべき点と、留意するべき理由を記述する問題が出題された。試験時間は 90 分、60%が合格の基準である。合格者は 2 人だった。

午後の口頭試問では、薬師寺蔵の国宝薬師三尊像のうち、金銅日光菩薩像と金銅月光菩薩像(白鳳時代)を東京国立博物館まで輸送し、展示後、返却するまでの全行程を担当する際、下見の際に調べるべきポイントや、トラブル時の対応について、面接官からの質問に答えてもらった。1 人 25 分間で、梱包設計の詳細について問うとともに、技術集団を統括し、きちんと説明することができる人物であるかどうかを審査した。面接時間は出入を含めて 1 人 30 分。面接する側としては、10 人で 5 時間が限度である。合格者は 9 人だった。

両方に合格して 1 級を取得したのは 10 人中 2 人となった。

この試験に先立ち、博物館協会の編集で出版している「博物館資料取扱いガイドブック」に、第 19 章として「美術品の梱包輸送設計」を加えて、第二次改訂版を発行した。1 級試験のための自学自習に資するための改訂だったが、

発行が予定より遅れて、試験の間際になったせいか、今回は、目に見える効果は得られなかった。

2級の認定試験

2級の認定試験は、令和6(2024)年2月17日土曜日と18日日曜日、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。今回は、コロナ禍前の定員に戻しての開催となった。

この試験は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準を想定しており、経験年数5年以上で、3級を保有していることを受験資格にしている。筆記試験、実技試験、面接があり、実技試験は梱包の基礎である陶磁器と、特有の基礎知識・技能を必要とする茶道具を課している。

面接試験に合格して、他の試験で落ちて、再受験する者については、面接試験を免除している。コロナ禍前と同じ60人の定員で募集したが、申込者は42人に留まり、欠席者があって、受験者は41人だった。うち面接免除者は11人だった。

2級の認定試験は、東京国立博物館平成館での実技試験から始まる。

実技試験の際のチェックポイントは、受験者の研鑽に資するため、博物館協会のホームページで公表している。ただし、合否の判定は、このリストにある項目の得点や減点によるのではなく、審査員の目で見て「この受験者に作品を任せられるかどうか」を基準にしている。

茶道具の実技は、箱に収まっている茶碗を取り出し、コンディションをチェックして、必要があれば内梱包して、箱に戻す作業を求めた。受験者が過度に緊張しないよう、今回から、3人同時受験にして、審査員は正面ではなく斜め横に腰掛ける方式に改めた。41人の受験者中、不合格者は4人、コメント付きの合格者が5人だったが、速やかで仕上がりも美しい者に与えられる二重丸を1人が獲得した。

陶磁器の実技は、綿布団を作成して、内梱包を行うことを求めた。今回は、助手を付けての実技試験の復活となり、7人一組で実施した。5人が不合格、コメント付きの合格が7人、二重丸が5人だった。

午後は、黒田記念館で筆記試験、講習、面接を実施した。

筆記試験は、博物館協会編集の「博物館資料取扱いガイドブック」から出題する。博物館資料の取扱いや梱包・輸送、保存について多肢選択式で回答を求めるが、該当する選択肢がなく、「なし」と答える「ゼロ回答」の問題も含まれる。回答時間は50分で、32問。65%の正解が合格の基準である。今回も、黒田記念館で実施したが、6名の不合格者が出た。

講習は、主として実技試験の振り返りを行った。茶道具は茶道具の審査員を務めている委員が行い、陶磁器は3級の実技審査中なので、試験委員の一人が予め実技試験を見ておいて実施した。

講習の後の面接試験は、コミュニケーション能力と指導能力の確認を主目的として実施している。今回は不合格者が1人出た。

所要の試験全てに合格し、2級の認定試験に合格した者は、受験者41名中29名、合格率は71%で、去年の68%をやや上回った。

3級の認定試験

3級の認定試験は、2級の認定試験と同日、2月17日土曜日、18日日曜日に東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。

3級は、需要が多く比較的取扱いの容易な陶器、額装作品、掛物などを所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができる水準を想定し、2年以上の経験を要求している。筆記試験と複数の実技試験を受け、全ての試験に合格することが3級認定試験合格の条件となっている。

募集は、コロナ前の定員である90人に戻って行った。申込者は93人だったが、その後、取り下げや欠席があり、当日の受験者数は85人だった。なお、3級では、筆記試験に合格して実技試験で不合格だった受験者が再受験する場合、筆記試験を免除しているが、今回の筆記試験免除者は9人だった。

午前中に実施する筆記試験と講習は、黒田記念館で実施した。筆記試験の第1問は、自習用「ガイドブック」の第1章「美術品の取扱いの基礎知識」の1部を示し、空欄に入る語を選択する問題。第2問は、掛物、卷子等の矢印で示す部分の名称を、選択肢の中から記号で答えるとともに、読み仮名を記す問題を出題した。今回も70%の正答を筆記試験合格の基準にした。受験者85人中、不合格者は5名にとどまった。

筆記試験に次いで同じ会場で講習を行い、実技試験で実施する額装作品、陶磁器、掛物の模範的な梱包作業をビデオで示し、解説した。3級の講習で使用するビデオは、有志の委員がこの認定試験に合わせて作り直した新しいビデオであり、博物館協会のホームページで公開している。自学自習にご活用願いたい。

午後に実施する実技試験は、東京国立博物館の平成館で実施した。各受験者2種目受験するが、額装作品については全受験者が受験し、もう一つは、予め振り分けられた班により、掛物か陶磁器のいずれかを受験した。

額装の実技試験は、15人が同時に受験し、6号の額装絵画を、国内輸送用に段ボール箱を作成して梱包する。掛物では、7名ずつ受験し、箱から出して壁に掛け、降ろし、内梱包することを求める。陶磁器では、8名ずつの受験で、与えられた綿布団を使用して内梱包を行うことを求める。

実技試験の可否の基準は2級と同じだが、額装については、作業効率も求められることから、制限時間(額装の場合40分)以内に作業が終了できない場合、一律に不合格としている。他の作品分野では、制限時間内に作業が終わらなかった場合、一律には不合格とせず、総合的に判断している。

実技試験の成績は、全員が受験した額装は、不合格 23 人、コメント付き合格 15 人、二重丸が 6 人だった。半数強が受験した陶磁器は、不合格 12 人、コメント付き合格 7 人、二重丸 3 人で、掛物は不合格 17 人、コメント付き合格 9 人、二重丸 2 人だった。

この結果、所要の試験に全て合格し、3 級の認定試験に合格したのは、受験者 85 人中 46 人で、合格率は 54%と、去年の 77%を大きく下回るようになった。

今回の認定試験の反省等

連休の谷間の 5 月 2 日木曜に、今回の認定試験の反省会を開催した。

2 級・3 級試験については、陶磁器実技で助手を復活したことを評価する意見が複数の委員から出された。

久しぶりにコロナ禍前の規模で実施したため、待機場所が混雑するケースがあった。以前は廊下にも待機スペースを設けて、混雑を緩和していたのを記憶しつつ、オペレーションを複雑にし過ぎて失敗しないよう、今回は敢えて廊下の待機スペースは設けなかったが、次回は検討することになった。

怪我で一時的に正座ができない受験者があり、今回は、テーブルを使用して実技試験を受けることを認めた。今後とも、機に応じて対応することとした。

2 級の受験者が減少しているが、新たに参加しつつある事業者の 3 級取得者が今後 2 級を目指すかどうか、現段階では予想できないことから、当面は、定員は変えず、様子を見ることになった。

最近、ギャラリー等からも受験希望が出てきており、その対応が話題になった。美術品梱包輸送スキルを業務として必要とし、担当セクションがあるか、作ることを検討している事業者については、3 級からの受験を認めることが確認された。

昨年話題に上った 2 級の実技試験の自習用ビデオについては、検討を開始することになった。

本認定試験の名称の英訳に関する質問があり、英訳をどうするか、検討することになった。